

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ 部分は外部評価の調査項目です ）

↑
取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を掲げ、その人らしく生活していただけるように支援している。		グループホームの役割を果たせるように、今後も職員間で意識の向上に努めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を掲げ、基本理念を実践するために、従業員心得を作成し実践につなげることができるように努めている。		理念に沿った仕事ができるように、職員の意識付けを行っていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	各フロアの入り口に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	平成19年2月に行った餅つき大会で地域との交流ができ、近隣の方より声をかけていただけるようになった。 町内会に入っているため、町内会の会合にも参加している。		今後も、地域との交流を行えるような行事を計画していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物や散歩を行い、地域の一員として生活している。地域の行事にできる限り参加している。平成18年度は、地域の清掃活動や文化祭、地域行事への参加、新聞回収への協力、地域の学校の職場体験学習の受け入れ、学校の文化祭の参加を行った。平成19年に入って、初詣を地域の神社で行い、グループホーム主催の餅つき大会では、地域の方にご協力いただき、たくさんの方に参加していただいた。		平成19年5月には地域の方を招いて食事会を行う計画を立てている。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	2月に行なわれたもちつき大会では、地域の方から、こうして集う機会がなかなかないので今後してほしいという声が聞かれた。そういった意味で貢献できたと思われる。		今後も、地域高齢者の生活に役立つ取り組みがないか検討し、できることがあれば行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上に向けて、外部評価の結果を受け止め一つ一つの改善に取り組んでいる。職員間で、外部評価の目的を話し合い、自己評価を各職員がそれぞれ行うことで、サービスの質向上のために具体的にどのようなことが求められているかを考えてもらった。		外部評価の目的を職員間で話し合っている。サービスの質向上のために、外部評価、自己評価を活かしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日常生活の状況や、行っていること等を説明している。運営推進会議で出た意見を反映できることは反映している。		現在、運営推進会議の構成員が少なく、なかなか意見が出にくい現状である。運営推進会議にご家族の参加をお願いし、意見等を聞ければ、と思っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談事業の相談員の派遣を取り入れており、月に1回相談員の派遣をしていただいている。		グループホーム側からは市町村担当者と行き来する場を作っていないため、今後検討していきたく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修への参加を行い、権利擁護制度への理解を深めるように努めている。利用者の権利を守るように職員との話し合いを行っている。権利擁護事業についての問い合わせがないため実績はないが、必要時アドバイスできるように準備している。成年後見制度は、利用されている方がいらっしゃる。		自己学習、研修を通して権利擁護に関する理解を深めていきたい。また、権利擁護事業の必要な方がいればアドバイスしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修への参加を行い、虐待の内容を理解するとともに適切なケアが行われるように努めている。		職員の自己学習、研修、勉強会にて虐待への知識を深めていきたい。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族とお話し、疑問や不安を解消できるようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス相談事業の相談員の派遣を取り入れている。入居者さんが意見を言えるように、信頼関係の構築と雰囲気作りに努めている。		今後も信頼関係構築と、雰囲気作りに努める。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活については、お手紙や電話にて行っている。職員の異動については、ご家族の面会時に説明している。		今後は、グループホームの新聞に掲載し、早い時期に全てのご家族にお知らせする。入居者さんの生活の状態は電話やお手紙、新聞にてお知らせする。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	北九州市の「介護サービス相談員派遣事業」を取り入れ、相談員派遣の日程を各フロアに掲示している。また、必要に応じて、北九州市の介護保険課を紹介している		ご家族が意見、不満、苦情を職員に安心して、気軽に言えるように雰囲気作りと信頼関係構築に力を注いでいく。新聞等を利用し、ご意見や苦情等に関する掲載を行ってきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞いている。内容を検討し、反映できることは取り入れている。(業務内容、行事などについての意見など)		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	平成18年10月に勤務時間の変更を行った。1日の職員の勤務時間が長くなり、日中の職員配置が充実したため、入居者さんの外出に対応する時間が確保できた。		必要があれば検討していく。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい環境をつくり、離職を最小限に防ぐ努力をしている(勤務時間、休日などの環境や、職員の意見が反映される環境作り)。異動の際は、利用者さんへの負担が少ないように精神的なケアを重点的に行っている。		職員の異動は出きるだけ避け、フロア異動であれば、異動後も小まめに入居者さん顔を見せ安心していただく。退職は出来る限り少なくなるように、職場環境作りに努めていく。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別に関係なく、必要な人材であれば採用している。 職員については、職員の経験やレベルに合った研修への参加の機会を作り、また責任感を持って働けるように役割を持たせ、仕事に対する充実感を得ることができるように努めている。 また、ストレスや疲労を溜めないように、定期的に休日が入り、必要な休みがあれば、希望に添えるように配慮している。		どんな事にやりがいを感じるかを職員間で話し合い「働きがい」のある職場作りに何が必要か検討していきたい。
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会を通して、職員教育に取り組んでいる。		勉強会や研修を通して、人権に対する意識を向上していきたい。また、人権に対する意識は職員の自己学習なしには行えないため、自己学習を行っていく。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やレベルに応じて、研修への参加をしている。職員配置を検討し、職員同士が、他職員の仕事をみて学べる環境を作り、適切に助言や指導ができる職員を配置することで職員の知識や技術、考え方の向上に努めている。		今後も研修参加を行っていく。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流が図れるようにネットワーク作りを行っている。平成18年には、他グループホームの勉強会に参加し、見学をさせていただいた。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の状態把握に努め、職員とのコミュニケーションをとっている。必要に応じて職員との面談を行い職員の意見や考えを聞いている。気分転換ができるように定期的に休日が取れるシフト作成をしている。		認知症介護は思った以上にストレスのかかる仕事であるため、気分転換ができる環境をつくっていく。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の業務についての情報収集を行い、職員に適時声かけを行っている。		職員一人ひとりが、どのような仕事をしたいか目標を持ち、それについて一步一步進んでいけるように話し合う。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人から生活で困っていること等の聞き取りを行っている。ご本人とご家族に話しの内容がくい違うことがあるが、ご本人の思いを受け止めるように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居に至るまでに、ご家族の直面していることや困っていることを聴取し、ご家族の苦労や不安なことを受け止めることができるように努力している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談におみえになった時に、グループホームという施設について知らない方が多く、相談内容に応じて、介護保険施設の説明や有効と思われる施設の説明を管理者や施設の社会福祉士が行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどのケースがご本人は入居を理解できていないこと、また、家庭での介護困難が入居の理由となっていることから、「体験入居」を考える家族の精神的な余裕がないのが現状である。しかし入居に際して、ご家族からの情報をもとに、ご本人の不安や転居によるダメージを最小限にできるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に、入居者さんに教えて頂いたり、一緒に過ごすことで、喜怒哀楽をともにしている。入居者さんも、スタッフに対し指導して下さることがよくある。		喜怒哀楽を共にできるように、一緒に過ごしたり教えていただく時間を大切にしながらご本人との信頼関係を築いていきたい。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、入居者さんの手助けを行ってくださるご家族には、職員が介助を交代せずに行っていたい。日常生活の情報提供しご本人の生活状況をご家族に知っていただき、ご本人との関係に活かしていただけるように配慮している。		ご家族にもグループホームの生活に参加していただけるように考えていきたい。(入居者さんが行っている生活リハビリに参加していただいたり、食事を一緒に食べる、など)

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との会話の中で、ご本人の情報やご本人をとりまく人の話を収集している。入居者さんとの会話の中で、ご家族の話を意図的にしており、ご本人がご家族のことを思う時間が増え、ご家族と関係構築に繋がっていると感じる。		今後もより良い関係が築けるように、ご本人とご家族の橋渡しができるように努める。また、思い出作りのため、ご家族と一緒に行事を行ったり、でかけたりできる場を提供していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は、面会にきてくださったりしている。ご家族がご本人を外出させ馴染みの場所に連れて行くことはあるが、グループホームでは馴染みの場所へ外出に行くことはない。しかし、馴染みの場所の思い出話を行うことで、馴染みの場所を忘れてしまわないように努めている。		馴染みの場所や、ご本人がよくお話しされる場所に行くことができるようにご家族の協力を得て馴染みの場所に行く機会を作っていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の相性や性格を考慮し、利用者が孤立せず、また仲良く楽しく過ごしていただけるようにつとめている。入居者同士、お互いの居室を行き来したり、心配したり、支えあえている。		認知症を持った方は、他者との兼ね合いは難しく、周りで過ごす人によりその方の状態が変化したり、仲が悪くなったりするため、利用者同士の関係を十分観察し、良い関係が保たれるように配慮している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移るなどされるため、退居後の継続的な関わりの事例がない。		必要があれば、継続的な関わりの検討を行う。
<p>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向は、言葉としてはっきりでてくるのが難しく、ご家族からの情報から、希望や意向の把握をしているのが現状である。また、言葉にはならないが、ご本人の表情や態度をしっかり見ることで、ご本人が嫌がっていないか、好んでいるか、など本人本位の視点でみれるように努力している。		個別に対応できることは、検討し行っていきたい。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴等は、ご本人との会話の中や、ご家族への情報収集にて行っている。 ご本人の馴染みの暮らしや趣味、どんな事に興味があったのか、どんな考え方をするのか、人間関係など、ご本人との会話の中で知った情報は介護記録以外は書類として記録していない。		会話の中で知ったことや分かったことなど、職員の頭の中に記録するのではなく、ケアする上で重要な、共有すべき情報であるという視点から、会話の中で知った情報を生活に活かしていけるように検討していく。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方は、ご本人の希望や生活習慣を活かしている。毎月ご本人の状態をモニタリングし、状態把握に努めている。生活動作を通して、有する力を把握するために、状態を判断する場合には意図的に声かけを簡素にしたり、意図的に必要以上の介助をせずに、本人力や状態を観察している。		今後も一人ひとりの過ごし方、身体状態、有する力の把握し、生活に活かしていく。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題とケアのあり方については、ご家族に意見を求めている。必要な関係者と話し合いケアプランを作成しているが、ご家族へは、話し合いへの参加の声かけを行っていない。		話し合いの場へのご家族の参加を検討していく。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況変化により身体的・精神的状態が大きく変化し、現行の介護計画が機能しないことがあれば、話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。		今後も、ご本人の状況に応じて介護計画の内容の検討を行っていく。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には介護記録に記録している。気づいた事や行ったこと、ご本人の様子、日常の変化があったこと、ご本人の言葉や日常の様子を記録し、情報交換の場として活かしている。介護計画作成時には、介護記録を見直し、見落としや新たなニーズがないか等を確認している。		充実した記録を残すための技術を身につけ、何を記録していると後あと役立つか、記録されておらず困った事はないか、など話し合い、記録を充実させていきたい。また、記録の簡略化できる部分は簡略化していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスや医療機関との連携により、マッサージ・身体的な相談、日常生活を楽しむ事(音楽療法・おやつ・花の提供)などを生活に取り入れている。		入居者さんが困ることなく、快適な生活ができるように、持っている機能を有効活用していきたい。
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署には、年2回防災訓練に協力していただいている。警察には入居者が行方不明になった時に捜索を協力していただいた。教育機関からは、実習生や研修生、職場体験等の受け入れを行っている。		今後も地域と協力していく。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議の時に、地域包括支援センターの方や、地域の公民館の館長などから、地域主催の在宅高齢者向けのサービスについて情報を得たりしているが、利用するにいたっていない。		必要があれば、検討していく。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して必要に応じてケアマネジメント等、相談・情報交換を行い、協力している。		必要があれば、検討していきたいが、地域包括支援センターのスタッフも忙しそうである。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の納得が得られたかかりつけ医と日常的に情報交換し、24時間相談できる体制がある。以前から受診していた病院などあれば、継続して通院していただき、他医療機関との連携も図っている。		かかりつけ医との連携を深めていきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に相談し、必要に応じて専門医を受診している。状態が安定すれば、かかりつけ医が診察し、ご本人の負担の軽減に努めている。		精神状態が不安定な方がいらっしゃれば、かかりつけ医に相談し、ご本人の負担を軽減したい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	身体状態等について、日中はすぐに相談できる看護師がいるため、必要に応じ医師や看護師に相談をしている。		今後も医療との連携を深めていきたい。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者さんが入院された時は、多く面会に行くようにしており、なじみの顔を見せることで安心していただけるように配慮している。病院関係者より情報収集を行い、家族との連絡を定期的にとっている。また、入院時は、病院関係者に日常生活の情報を提供し、入院中のご本人への負担が最小限になるように働きかけている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化している段階から、ご家族・医師・看護師・グループホームスタッフ等で今後の方針を話し合い、終末期をどう迎えるかの検討を行った。終末期の治療としてどこまで治療を行うのか等相談し、方針を共有した。		今後も必要に応じて終末期に向けた方針の共有をしていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族・医療関係者・グループホーム関係者にて話し合い、終末期の支援に取り組んだ。		看取りを、ご本人や家族に安心して過ごしていただけるように、研修に参加している。看取りに関する事例等の収集も行っていきたい。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居に際して、ご本人やご家族から、生活歴や生活リズムを聞き取り、いきなりリズムが変わることがないように努めている。出来る限り慣れ親しんだものを持ち込んでいただけるように声かけしている。別の場所に住み替えるときには、グループホームでの日常生活の情報を提供している。		環境の変化が最小限にできるように、情報収集や情報提供を行う。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに十分注意して声かけや、個人記録の取り扱いを行っている。		個人情報の取り扱いや言葉かけに十分注意していく。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人との信頼関係を築き、何でも思ったことを口にできるように努めている。ご本人の、話を理解する能力に合わせて、声かけを行っている。また、小さなことでも、自分で決めていただいたり、決めるのが難しい方に対しては、決めやすいように配慮し、自己決定していただいている。		ご本人の能力の確認を行い対応していく。また、ご本人の希望を引き出すためには職員の知識や技術も必要不可欠なため、職員の技術も高めていく。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の流れを優先してはいない。「何がしたい」などがあれば出来る限り希望に添えるようにしている。また、生活歴から、ゆっくりすごしたい方もいれば、とにかく動いていたい方もいるため、ご本人に合わせている。		今後も「その人らしい生活が送れるように」という事を常に頭に置き、ご本人のペースで生活していただきたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	グループホームに月1回、散髪屋さんが来園している。ご本人の希望により散髪をしていただいている。(入居前の美容室に行きたいという方は現在のところいない)ご本人の希望があれば、髪の毛を染めている。ご本人の好きな色のピン止めで髪をセットして喜んでいただいている。		ご本人の希望があれば、そとの美容室へ行けるよう支援したい。髪型の希望などあれば、おしゃれを楽しめるように、美容師さんと情報交換していきたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作るときに、入居者さんに希望のメニューを聞いたり、好きなものを取り入れるようにしている。できる方には食事の準備を手伝っていただき、盛り付け、配膳、下膳、洗い物まで、できることを手伝っていただいている。職員と入居者さんが一緒に食事を摂っており、会話をしながら楽しく食べていただいている。		食事を楽しく、美味しく食べていただけるように、今後も食事作りから洗い物まで、職員と入居者さんの協働作業としていく。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	園の方針はあるが、ご本人の希望があれば検討し、嗜好品の提供を行っている。		必要に応じ検討する。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、またトイレ誘導を積極的に取り入れており、排泄コントロールがうまくいっている方が多い。また、性別で排泄の仕方が異なるため、排泄動作での心地よい排泄ができるように支援している。臀部、腹部などの皮膚状態が良好に保てており、排泄の支援がうまく行えている結果ではないかと思う。		気持ちよく排泄していただけるように、個人の状態把握に努める。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が好きな方もいれば、嫌う方もおられる。入浴が嫌いな方へも定期的に入浴していただけるように、その日の精神状態などを見ながらタイミングを合わせている。入浴が好きな方にたいしては、希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。(現在は、朝や夜間に入浴したい、との希望が聞かれないため、日中のみ入浴となっている)		今後も、ご本人の希望に合わせて入浴ができるように努めていく。また、夜間入浴の希望があれば検討していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるように、「寝る前にすると寝れる」などのことがあればおこなっている。(牛乳を飲むと寝れる、など)入眠しやすくするため、温度や物音、照明に注意している。日中も、ご本人の希望や、ご本人の状態に合わせて休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員が何でもするのではなく、入居者さんと一緒に行い、また、日々の生活から役割ができ、楽しんで生活していただいている。また、やりたいことなどあれば、一律に制限するのではなく行える範囲内で行っていただいている。現在は家庭菜園や散歩が中心となっている。		今後も張り合いや喜びを感じていただけることを一つでも多く取り入れていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことでの安心感、お金を使うことの楽しみを生かしていく為、能力に合わせ、お金を所持する・使うことへの支援を行っている。(2名の方はお金を持っており、その中で自由につかっただけでいる。その他の方は、買い物をするとき立替で購入していただいている)		現在、お金を所持している方は2名のみだが、他の方についてもご本人の能力など検討し、可能であれば取り入れていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な外出の機会を提供している。また、ご本人の希望があれば随時外に出かけている。		今後も希望に応じて外出ができるように支援する。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に屋外へのお出かけを行っている。認知症のため、なかなか行きたい場所等の希望が出てこないが、屋外イベントを行う・ドライブを行うことで、他入居者さんと一緒に出かける機会を作っている。		外出は定期的に行っているが、行きたい場所があればご家族の協力を得て、検討していきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望のある方へは、電話を使えるようにしている。また、スタッフがご家族に電話をかけた際には、ご本人とご家族に電話で話していただくように努めている。		定期的に、ご家族とのやりとりができるように、手紙や電話を利用して、つながりを深めていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が見えたときには、お茶を提供したり、周りの人に気を遣う方であれば居室で面会していただいたりしている。		今後も気軽に面会に行けるような環境を作っていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。身体拘束をしないために、見守りを強化したり、一緒に過ごす、安心していただく、落ち着いた原因を回避する、等にて対応している。		今後も身体拘束を行わない。しかし、拘束をする、しないは別に「介護保険法指定基準における禁止事項の対象となる具体的な行為」を知る必要があるが、全職員に周知できていないため、職員間で勉強していく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、フロア玄関も夜間以外は鍵を使用していない。夜間は防犯のため、玄関にかぎを使用している。		職員の見守り、気配りにより、今後も鍵はかけない。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者さんの日常生活の見守りを行い、安全に配慮している。		今後も、プライバシーに配慮しながら、安全に生活していただく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や、消毒などの洗剤は危険なため職員が管理している。普通に使えば危険のないものは、ご本人の状態をみながら、一律になくしていない。		危険に対する注意は必要で、入居者さんの安全を守ることが大切だが、危険に過敏になり過ぎれば、何も物がなくなってしまう。見守りで十分なもの、職員管理が必要なもの等の検討を行い、今後も職員の都合で物品を一律になくさないように努める。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成している。		事故が起こらないように、日常生活を見守り、リスクがあれば職員会議を開き検討している。又、事故を繰り返さないため、事故が起こったときは、事故検討委員会を開催し、対策を検討している。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。		緊急時の対応が的確に行われるように、緊急時の対応について勉強会や研修を行っていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等は行っている。訓練時、地域住民に避難訓練のお知らせをし、参加をお願いしたが、まだ地域住民が参加してくださるに至っていない。		今後も地域への働きかけを行い、協力していただけるようお願いしていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご本人に対するリスクを説明している。ご本人の生活が窮屈なものにならないように、どうすればリスクが低くなり、楽しんで生活を送れるか検討している。		リスクを全くゼロにすることはできないが、リスクを最小限にし、暮らしも楽しめるためにどうしたらいいか、家族と今後も話し合っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や様子が日常と変化があったり、異変があれば、職員・医療スタッフに連絡し、医師の指示をえている。		今後も、入居者さんの状態把握に努め、異変があれば職員間・医療スタッフと共有していく。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のケースに、薬の名前と効果を掲示している。		今後は、薬の効用だけでなく、副作用にも目をむけていく。(禁忌事項については職員間で共有している)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の内容や飲み物で便秘防止を行っている。		

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを行っており、(生活習慣により、朝夕のみ行う方や、起床時と夕食後に行う方もいらっしゃる)できる限り自力で行っていただき、その後不足部分をスタッフが介助している。訪問歯科で口腔内のお手入れを行っていただくことや、口腔状態に異常や疑問があるときは、併設のデイサービスセンターの歯科衛生士の協力を得ている。		今後も、肺炎防止や人間関係の良好な継続のため、口腔ケアを行っていく。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昔からの食事摂取量などを考慮して、食事を提供している。献立については、併設のデイサービスセンターの管理栄養士に相談し、栄養バランス面での指導をいただいている。食事摂取量のチェックを行い、食事摂取量が著しく低下しないように注意している。水分チェックは、水分摂取量が不安定な方や、体調不良の方を対象に行っている。		今後も、栄養や水分が不足しないようにしていく。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、スタッフで共有している。インフルエンザの予防接種を行っている。また、行政よりの感染症についての書類や通知はスタッフで回覧し、感染症予防に対する意識を高めるように努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、新鮮なものを購入するようにしている。また、食材は早めに使い切る、冷蔵庫の中を定期的にチェックしている。炊事場、調理器具等はきれいにしている。		今後も新鮮な食材を使い、衛生管理にも努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は緑が植えてあり、親しみやすいものとなっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、照明、匂いを調整し、利用者にとって快適な環境となるように努めている。		環境は入居者さんにとって生活の安定を左右する大きな要因であることを考え、今後も快適な環境を提供できるように努める。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は視覚的に2つに分かれるようになっている。またソファなどを利用し、自由に過ごせるようになっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に説明し、使いなれたものを持って来ていただいている。		今後もご本人にとって居心地のよい環境作りを行っていく。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時換気を行い、臭いには十分注意している。必要に応じ芳香剤を使用している。温度は冷房・暖房ともに目安温度を設置し、冷えすぎない、温めすぎないように注意して利用している。		入居者さんは、フロアにて座って過ごすことが多いため、職員の感覚では体調を崩してしまうため、十分注意して温度管理を行う。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間は全てバリアフリーとなっており、必要に応じ手すりを設置している。バリアフリーとなっているため、軽介助で動作が行えることが多くある。		入居者が、安全に生活しやすいように、出来るだけご自分の力でできるように、機能を活用していく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者さんの分かる力を活かせるように、ご本人に合わせた説明を行っている。混乱を防ぐために、汚れを早期処理したり、行きたい場所にすぐ行けるようにフロア内の整頓に努めている。		今後も、ご本人に合った対応を行っていく。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園内の畑やベランダのプランタを利用し、野菜や花を育てている。畑の野菜の水やりを行ったり、収穫したりと楽しんでいる。		今後も、利用者さんと相談しながら活用していきたい。

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの成果 （該当する番号欄に 印をつけること）	
サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

グループホーム華里（ユニットB）

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない